

運動してみたいと感じる体育の学習

～表現遊びの実践をととして～

南 拓哉

表現遊びの学習の中で、学習内容や課題設定、ペア学習などを工夫することにより、子どもたちが自分の表現したい生き物になりきる、なりきった生き物が友達に伝わる喜びを感じ、さらに生き物になりきることを検証した。子どもたちの様子から、自分のなりきりたい生き物になりきって学習する子どもの姿が見られた。授業の検証には、態度測定法を用い、子どもたちにとって表現遊びの学習が魅力あるものとなったのかを調べた。この検証の結果から、特に「体育をするよろこび」「挑戦する態度」について単元前と単元後での改善が見られなかった。単元の評価としては、子どもたちにとって魅力的なものとなりえていない部分もあることがわかった。低学年の表現遊びにおいて、子どもたちの表現したものに対する言葉かけや一緒に表現遊びに入り込むといった手立てや表現するための動きやお話作りが苦手な子どもへの支援が必要であることが改めてわかった。

キーワード：表現遊び、態度測定による体育授業、ペア学習、生き物、お話作り

1. 研究の目的

体育科で育みたい探究力として、「できるようになりたい！」と運動に取り組む続ける力、育みたい省察性として、どうすればできるようになったかを振り返る力・どうすればできるようになるのかを考える力を設定している。

本研究では、子どもの探究的な学びの姿を「自分のなりきりたい生き物の特徴を捉えて、表現しようとする」とし、そのために「生き物の特徴や体の動かし方をふり取り、なりきりたい生き物の表現の仕方を考える」省察性を働かせることによって、子どもたちが題材となる生き物になりきって運動に取り組むと考えた。

表現遊びの学習前に態度測定法を用いて、今までの体育の学習が子どもたちにとって有効であったのかを調べた。男子は、表1のような結果となり、よろこびの項目の「体育をするよろこび」について基準よりも低く出ており、体育の学習を行うことについて好意的に感じていないようであった。評価の項目については、「仲間との協力」「授業の印象」「男女意識」「体育授業に対する好嫌」について、基準より高い結果であり、態度スコアは、やや高いレベルを示していた。

表1 男子、単元前の診断表

調査対象(a)		項目点 (C→D) / %		評価	留意点	
調査項目	人数	① 達成	② 達成	達成率	留意点	留意点
1 体育をするよろこび	14人	6.19		43.6%		
2 ほろろる気持ち	14人	6.14		43.6%		
3 運動のやりがい	14人	6.14		43.6%		
4 強い運動	14人	6.10		43.6%		
5 頑張る習慣	14人	6.76		48.3%		
6 学習のやりがい	14人	6.76		48.3%		
7 仲間との協力	14人	6.71		47.9%		
8 授業料の満足	14人	6.71		47.9%		
9 運動の楽しさ	14人	6.17		43.9%		
10 授業の成長	14人	6.14		43.6%		
11 仲間づくり	14人	6.71		47.9%		
12 授業の印象	14人	6.16		43.9%		
13 男女意識	14人	6.16		43.9%		
14 みんなのよろこび	14人	6.16		43.9%		
15 授業料に対する評価	14人	6.76		48.3%		
16 体育授業に対する評価	14人	6.16		43.9%		
態度スコア	14人	1.16		8.3%		

女子は、表2のような結果となり、よろこびの項目については「体育をするよろこび」「運動のそら快さ」「頑張る習慣」「挑戦する態度」、評価の項目については「体力づくり」「みんなのよろこび」について基準より低い項目が見られた。態度スコアは、やや低いレベルとなっていた。

表2 女子、単元前の診断表

調査対象(a)		項目点 (C→D) / %		評価	留意点	
調査項目	人数	① 達成	② 達成	達成率	留意点	留意点
1 体育をするよろこび	15人	6.37		42.4%		
2 ほろろる気持ち	15人	6.10		40.7%		
3 運動のやりがい	15人	6.47		43.1%		
4 強い運動	15人	6.10		40.7%		
5 頑張る習慣	15人	6.43		42.9%		
6 学習のやりがい	15人	6.73		44.9%		
7 仲間との協力	15人	6.10		40.7%		
8 授業料の満足	15人	6.10		40.7%		
9 運動の楽しさ	15人	6.10		40.7%		
10 授業の成長	15人	6.10		40.7%		
11 仲間づくり	15人	6.10		40.7%		
12 授業の印象	15人	6.10		40.7%		
13 男女意識	15人	6.10		40.7%		
14 みんなのよろこび	15人	6.10		40.7%		
15 授業料に対する評価	15人	6.73		44.9%		
16 体育授業に対する評価	15人	6.10		40.7%		
態度スコア	15人	6.10		40.7%		

診断表の結果から、子どもたちに共通していることが、よろこびの項目にある「体育をするよろこび」に対して低いことであり、楽しく授業をしているように見えていても、子どもたちは体育の学習をすることに対して、他教科よりも好意的に感じていないことを改善していく必要性があった。また女子については、体育の学習内容が有効的ではないことが明らかとなった。

本単元で、学習環境、課題設定、ペア学習、学習カードの工夫から、子どもたちが探究的な学びをすることができるのかを検証する。

2. 研究仮説

本単元では、子どもたちが自分のなりきりたい生き物の動きを表現するために、お話を作り即興的に表現

をする。自分が表現したことを、友達と共有することで、自分の表現が伝わったのか、またどうして伝わらなかったのかを知ることができる。表現遊びにおいて、友達に伝わる、もしくは伝わらないということが学びへの力となると考えた。

なりきりたい生き物の動きを捉えさせ、ストーリーに合わせて即興的に踊ったり、友達と踊ったりしたことを、共有させることで、汎用的な「表現力」が育まれるだろう。

3. 研究内容・方法

本単元では、子どもたちが、自分のなりきりたい生き物になりきって、友達に表現する活動を中心に学習に取り組めるようにする。そのために5つの方法を用いて学習を進めていく。また、子どもたちの学習カードによるふり取り、態度測定法を用いて単元の成果及び課題を検証していく。

3. 1. 学習環境

子どもたちが、生き物の動きや生活している環境を想像するために、和歌山城動物園や調べ学習をとおして、生き物の動きを調べ、共有したものを掲示したり、ふり取りカードや学習の時の発言をキーワードにして掲示したりする。お話作りは、「始め・中・終わり」の構成で考えさせる。また学習時には音楽をかけ、よりその生き物の世界を想像できるようにしていく。

3. 2. 課題設定

学習課題は、子どもたちが生き物を想像し、どのように生活して動くことができるのかを考えられるように具体的な言葉を使って提示していく。また、子どもたちのなりきりたい生き物に応じて設定していく。

3. 3. ペア学習

自分が考えた生き物の動きが伝わるか、伝わらないかを学習活動で考えるためには、相手がいないければならない。ペア活動をとおして、自分の考えた生き物の動きが伝わるのか、伝わらないのかを知り、なりきっていく喜びを感じられるようにしていく。

3. 4. 学習カード

学習カードは、1時間ごとにカードを配布し、学習でどのようなことを考えたのか、友達への気付きを書くことができるようにする。またどんな生き物になったのかを記入できるようにしたり、自分のなりきった達成感をメーターにしたりして自己のふり取りができるようにする。学習カードに記述され

たことから、学習につながる部分をキーワードにして掲示し、学級で共有できるようにする。

3. 5. 態度測定法

子どもたちの学習の様子や、学習カードの記述に加え、学習効果を客観的に読み取るために態度測定法を用いる。態度測定法では、学習の「よろこび」「評価」について具体的な数値でみることができ、実践した授業が子どもたちにとって有効であったか否かを判断することができる。単元前と単元後にアンケートを行い、診断表に結果を記入し、出てきた数値から授業の成果及び課題を明らかにしていく(図1、表3)。

体育のじかんについて

今までの 体育のじかんを おもいだして 教えてください。先生が よむのを よく書いて、
(はい、いいえ、わかりません) のなかから おもったとおりの こたえを のてかこみしょう。

2年 くみ ばん 男・女 なまえ()

1. じかんわりの ながで 体育が いちばん すきです	1 (はい いいえ わかりません)
2. 体育のとき いつも はりきります	2 (はい いいえ わかりません)
3. 体育が終わったあと とても きもちが よいです	3 (はい いいえ わかりません)
4. 体育のじかん うまくできたときの気持ちは いまでも わすれません	4 (はい いいえ わかりません)
5. 体育をするとき どんなときも がんばるが つきと おもしろい	5 (はい いいえ わかりません)
6. 体育のじかん だんだんじょうずになっているのが とても たのしみです	6 (はい いいえ わかりません)
7. 体育のじかん うまくできるたびに いつも かんがえます	7 (はい いいえ わかりません)
8. 体育は たいげつなべんきょうだと おもしろい	8 (はい いいえ わかりません)
9. 体育が終わったあと みんなで あかたづきをするのは きらいです	9 (はい いいえ わかりません)
10. 体育のじかん ばじめの体そや おろの体そやは おもしろくないです	10 (はい いいえ わかりません)
11. あせついついであるような しんどい体育は きらいです	11 (はい いいえ わかりません)
12. らつづの体育のじかんは うんどう会のとより やるきがへません	12 (はい いいえ わかりません)
13. 体育のじかん 男(女)の子といっしょにするのは きらいです	13 (はい いいえ わかりません)
14. 体育のじかん うまくできる子はかわいがるので つまらないうと おもしろい	14 (はい いいえ わかりません)
15. 体育のとき すきなものがないのなら おもしろくない	15 (はい いいえ わかりません)
16. 体育ができるより 運動の経験ができる方が いいと おもしろい	16 (はい いいえ わかりません)

図1 単元前・単元後アンケート

表3 診断表(2年生)

診 断 表(2年生)									
調査人数(n)		項目点(O-x)/n		診断		総合診断			
単元始め 15人		① 始め	② 終わり	② - ①	単元始め	単元終わり	単元始め	単元終わり	単元変わり
単元終わり 人									
よ ろ こ び	1	体育をするよこぎ					態 度 ス ケ ー ル	高いレベル	
	2	はりきる気持ち						やや高いレベル	
	3	運動のそつ快さ						普通のレベル	
	4	深い感動						やや低いレベル	
	5	がんばる習慣						低いレベル	
	6	学習のよこぎ						アンバランス	
	7	挑戦する態度							
	8	体育科目の価値							
評 価	9	態度スコア					今 学 期 の 授 業	成功	
	10	仲間との協力						やや成功	
	11	授業の流れ						横ばい	
	12	体力づくり						やや失敗	
	13	授業の印象						失敗	
	14	男女意識						アンバランス	
	15	みんなのよこぎ							
	16	体育授業に対する評価							
		態度スコア							

4. 授業の実際

4. 1. 学習環境

子どもたちが表現する生き物を、「虫」「動物」「海の生き物」と設定し子どもたちに伝えた。そこから、

自分のなりたい生き物やお話を考えるために、音楽を聞かせ、音楽の様子から生き物がどのように動くのかを想像させた。想像したことを共有し活用するために、子どもたちが考えた、生き物の動きを表す言葉や生活する場の様子を表す言葉をキーワードとして掲示した（図2）。

-
- 生きもの生活をひょうげんしよう
- めあて 広い海でくらす生きものになろう
- 生きものになろう
- うれしい
- うごき
- 海の
- 生きもののかい

音楽は、生き物の様子を感じるだけでなく、その生き物になりきっていくためにも大切な要素となる。子どもたちが、生き物の暮らす世界や場面の様子を想像できる音楽を選び、子どもたちが表現する生き物に合わせて変更し流すようにした。子どもたちは、場の様子を想像したり、なりたい生き物になりきって表現したりする姿が見られた。

課題設定は、子どもたちが生き物を想像したり、どのように動くのかを想像したりできるようにしていった。単元の前半は、個人で後半は、友達と一緒に表現できるようにした。自分のなりたい生き物になる時間では、歩き方や動き方にこだわり表現しようとする姿が見られた(図3)。また友達と一緒に表現する時間では、役割を決めたり、どんなに動

自分のなりきった生き物とそのお話を伝え表現する。表現した後、友達の表現を見てよかったことや気付いたことを伝え合った。友達の表現を見て、否定的な発言は見られず、友達の表現を受け入れ、肯定的に感じたことを伝えていた (図4)。

-
- A black and white photograph showing a group of children in a gymnasium. They are wearing white t-shirts, dark vests, and white caps. Some are sitting on the floor in a circle, while others are standing in the background. The children appear to be engaged in a group activity or game.

学習カードには、自分の表現した生き物や考えたお話を記述できるようにした。初めは「楽しかった」「チーターになった」という記述が多かった。学習が進むにつれ、「どんな動きをしたのか」「どんなお話にしたのか」が分かる記述が多くなってきた。

ライオンのくらしをできたからよかった。ライオンらしくできたからよかった。さいしょゆっくり歩いて、中はえものをおそいにいって、つかまえたえものを食べてねる。

5. 単元の考察

表現遊びの単元から、子どもたちは毎時間、自分のなりたい生き物になり、お話を考え学習に取り組んでいたように感じた。学習環境の中にもある、お話作りに取り組んだことで、生き物になるだけでなく、「始め・中・終わり」のお話を作ることへの関心も高まったことも要因として考えられる。子どもの振り返りにも、お話が具体的に記述されたり、お話と動きの両方が記述されたりしていた。

・サメになって、ゆかをはってえものを見つけたらさっとうごく。

お話を考えるだけでなく、友達と生き物になるときに役割を意識したふり回りも見られた。

・なかまを作ってたかかったり、ぼくがえものになってあげたりしました。自分の気持ちは、えものになってあげたりしたから、いつもより上手にできたと思います。

5. 1. 態度測定法からの診断

表4 男子、単元後の診断表

調査人数(n)		項目点 (○-×) /n			診断		総合診断	
単元始め	単元終わり	①始め	②終わり	③変化	単元始め	単元終わり	単元始め	単元終わり
1.4人	1.4人							
よろこび	1 体育をするよろこび	0.29	0.29	0.00	×	×	高いレベル	
	2 はりきる気持ち	0.64	0.50	-0.14	×	×	やや高いレベル	○
	3 運動のそう好き	0.64	0.57	-0.07	×	×	普通のレベル	
	4 強い運動	0.50	0.29	-0.21	×	×	やや低いレベル	
	5 頑張る習慣	0.79	0.64	-0.14	○	×	低いレベル	
	6 学習のよろこび	0.79	0.71	-0.07	×	×	アンバランス	○
	7 挑戦する態度	0.71	0.36	-0.35	×	×		
	8 体育科の価値	0.71	0.64	-0.07	×	×		
評価	態度スコア	5.07	4.00	-1.07	○	×	成功	
	9 仲間との協力	0.36	0.64	0.27	○	×	やや成功	
	10 授業の進め	0.64	0.71	0.07	×	○	模範	
	11 体力づくり	0.71	0.50	-0.21	×	×	やや失敗	
	12 授業の印象	0.36	0.57	-0.21	×	×	失敗	
	13 男女意識	0.50	0.50	0.00	○	×	アンバランス	○
	14 みんなのよろこび	0.50	0.79	0.29	×	○		
	15 体育授業に対する理解	0.79	0.36	-0.43	×	○		
	16 体育授業に対する評価	0.50	0.57	0.07	×	×		
	態度スコア	5.36	5.43	0.07	×	×		

学習前と同じく「体育をするよろこび」については変化が見られなかった。よろこびの項目については、全体的に低下していることが分かった。評価の項目の「みんなのよろこび」について向上し、これはペア学習を取り入れたことにより、一人一人が承認され運動に取り組むことができたからではないかと考えられる。

表5 女子、単元後の診断表

調査人数(n)		項目点 (○-×) /n			診断		総合診断	
単元始め	単元終わり	①始め	②終わり	③変化	単元始め	単元終わり	単元始め	単元終わり
1.5人	1.5人							
よろこび	1 体育をするよろこび	0.27	0.33	0.07	×	×	高いレベル	
	2 はりきる気持ち	0.33	0.73	-0.40	○	×	やや高いレベル	
	3 運動のそう好き	0.40	0.33	-0.07	×	×	普通のレベル	○
	4 強い運動	0.33	0.33	0.00	×	×	やや低いレベル	○
	5 頑張る習慣	0.40	0.33	-0.07	×	×	低いレベル	
	6 学習のよろこび	0.73	0.27	-0.46	×	×	アンバランス	
	7 挑戦する態度	0.33	0.33	0.00	×	×		
	8 体育科の価値	1.00	0.33	-0.67	×	×		
評価	態度スコア	4.40	4.27	-0.13	×	×	成功	
	9 仲間との協力	0.33	0.33	0.00	×	×	やや成功	
	10 授業の進め	0.33	0.27	-0.06	×	×	模範	○
	11 体力づくり	0.33	0.40	0.07	×	×	やや失敗	
	12 授業の印象	0.73	0.27	-0.46	×	×	失敗	
	13 男女意識	0.33	0.33	0.00	×	×	アンバランス	
	14 みんなのよろこび	0.40	0.27	-0.13	×	×		
	15 体育授業に対する理解	0.73	0.27	-0.46	×	×		
	16 体育授業に対する評価	0.33	0.40	0.07	×	×		
	態度スコア	4.53	4.27	-0.26	×	×		

女子の診断表から、よろこびの項目にある「体育をするよろこび」について改善されていないことが分かった。男子とは違い、よろこびと評価の項目が全体的に向上しているものが多いが、基準点を満たしていない。

6. 成果と課題

本単元から成果として、子どもたちにとって身近な題材をもとに表現遊びに取り組ませることを基にして、「始め・中・終わり」のお話を考えさせる学習環境は、子どもたちの姿や振り返りから学びに有効なことが分かった。また学習カードに自分のなりきった生き物や考えた動き、お話を記述させることで、子どもたちが自分の学習したことを具体的に残すことができた。ペア学習によって相手を意識して表現したり、表現を受け入れたりして学習することができた。

課題として、態度測定法の診断から男子がアンバランスに、女子が横ばいとの結果になったことである。子どもたちが、「この生き物になりたい」「今日は、こんな生き物になって、こんな動きができた」という気持ちへの気付きや教師の支援のタイミングが適切でなかったことが考えられる。子どもたちがなりきっている生き物や生き物の生活している環境を、教師からの言葉かけや全体共有の時間設定を見直し学習で展開していかなければ動きへの気付きを促す支援にならない。また子ども同士が表現したことを伝え合う時間に積極的に介入し、一緒になって表現することをとおして気付きを価値付けすることが必要であると感じた。

今後、表現遊びの研究を進めるにあたって、子どもたちが運動したくなるような教師の価値付けや支援ができるように研究を重ねていきたい。

参考文献

- 文部科学省 (2017) 「学習指導要領 (平成29年告示) 解説 体育編」, 東洋館出版社
- 細江利文 成家篤史 細川江利子 (2014) 「動きの「感じ」と「気づき」を大切にしたい表現運動の授業づくり」, 教育出版
- 全国ダンス表現運動授業研究会 (2015) 「みんなでトライ! 表現運動の授業 DVD付き」, 大修館書店
- 文部科学省 (2013) 「学校体育実技指導資料 第9集 表現運動系及びダンス指導の手引き」 東洋館出版社
- 白旗和也 (2019) 「小学校 これだけは知っておきたい新「体育授業」の基本」, 東洋館出版社
- 岡出美則 植田誠司 (2017) 「小学校新学習指導要領ポイント総整理 体育」, 東洋館出版社
- 白旗和也 (2017) 「平成29年版 小学校新学習指導要領の展開 体育編」, 明治図書出版